

平成 16 年 10 月 29 日

各 位

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ
株式会社東京三菱銀行
アコム株式会社
株式会社ディーシーカード
株式会社東京三菱キャッシュワン

コンシューマーファイナンス業務の抜本的な強化のための機能結集と再編について

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ(取締役社長 畔柳 信雄、以下 MTFG) および株式会社東京三菱銀行(頭取 畔柳 信雄、以下 東京三菱銀行)、株式会社ディーシーカード(代表取締役社長 片柳 彰、以下 DC カード)、株式会社東京三菱キャッシュワン(代表取締役社長 若松 壽一、以下キャッシュワン)は、アコム株式会社(代表取締役社長 木下 盛好、以下アコム)と協力し、総力を挙げて MTFG グループのコンシューマーファイナンス業務の抜本的な強化を実現するため、以下のとおり機能結集と再編を検討していくことで基本合意しました。

1. 機能結集・再編への背景

MTFG グループは、「コンシューマーファイナンス」を単なる個人のお客さま向けの小口貸出ではなく、お客さまの日常生活の中で生じるさまざまな資金や決済ニーズに対し、機動的かつ弾力的に、またできるだけ低利で、返済方法等においても高い利便性をもってご提供するものと考えています。この観点から、本年 3 月に締結した「アコムとの戦略的業務・資本提携」と「総合カード戦略」をコンシューマーファイナンス業務推進の 2 つの大きな柱と位置づけています。

(1) 総合カード戦略

- ☆ このうち「総合カード戦略」については、本年 10 月 12 日、わが国で初めて、手のひら静脈認証を付与した IC キャッシュカードに、銀行本体発行によるクレジットカード、電子マネーを一体化した多機能 IC カード(商品名:スーパー IC カード「東京三菱-VISA」)の取り扱いを開始しました。同カードの取り扱い開始以来、約半月が経過しましたが、お客さまから大きな反響をいただいています。
- ☆ この総合カードは、お客さまの日常生活の中で生じるさまざまな資金や決済ニーズに対し、「今払う」「後で払う」「前に払う」といった支払いに関する弾力性と機動性を兼ね備えています。加えて、下表のとおり、お客さまにとってこれまでにない大きなメリットのあるカードであり、MTFG グループでは、この総合カードが今後のカード分野における大きな主流になっていくと考えています。

	総合カードサービスの概要	お客さまのメリット等
今払う	☆ IC キャッシュカード ◇ 手のひら認証による圧倒的に高いセキュリティ	・圧倒的に高いセキュリティ(1 億円まで補償等) ・メガバンクで初めて
後で払う	☆ 銀行本体発行のクレジットカード ◇ 銀行商品とのクロスセル、ポイントではない直接のキャッシュバックなどのタイアップメリット ◇ 個人情報管理対応上もメリットあり ◇ 低い会員獲得コスト	・銀行取引メリット還元効果大きい ・個人情報管理の一貫性に優れている
前に払う	☆ 電子マネー	・多機能で利便性が高い

(2) 総合カードのクレジットカード機能

- ◇ この総合カード（スーパーICカード「東京三菱-VISA」）は、メガバンクでは初の銀行本体発行のクレジットカードであり、このクレジットカード機能がメインの機能の一つとなっています。
- ◇ 銀行本体発行であるため、銀行取引と直接リンクしたさまざまなメリットをご提供でき、また、発行体が1社であることにより、個人情報の一貫した管理も可能です。もちろん、これまでのクレジットカードと同じく、買い物や旅行、また最近では公共料金の一部や病院でのお支払いなど、お客さまの多様な決済ニーズに合わせてお使いいただけます。
- ◇ MTFGグループは、数々の使いやすさやメリットをご提供し、この総合カードのクレジットカード機能を存分にお使いいただけるよう努めてまいりますが、そのためには、
 - ① お客さまのニーズに合わせて必要なクレジット枠をきちんと設定し、また、その設定額をお客さまのニーズに合うように機動的に変えていく
 - ② 毎日の暮らしの中での生活資金や教育費などにおいて、ちょっとした資金ニーズが生じた場合に、わざわざ借入れを申し込まなくても、あらかじめ設定されているクレジットの枠を、お客さまのニーズに合わせた使い方と返済方法でご利用いただける
 - ③ ご利用いただく際には、リボ・キャッシングサービスをマーケット水準よりもできるだけ低い金利でご提供することが重要であると考えています。
- ◇ 一方、銀行にとっては、与信コストの増加を回避することが重要です。この与信コストを抑えることが、お客さまにさらに低い金利をご提供できることにも繋がります。
- ◇ すなわち、「お客さまに必要なクレジット枠」と「リボ・キャッシングなどにおけるできるだけ低い金利」の双方をご提供するとともに、与信コストの増加を回避し、さらにはこれまで以上にお客さまのニーズの変化に対応して、その設定額をお客さまのニーズに合うように機動的に変えてご提供していく枠組みが求められています。

2. 機能結集・再編の内容（別紙、再編概要図をご参照）

このように、お客さまにとってこれまでになく大きなメリットのある総合カードをご利用いただくなかで、お客さまに必要なクレジット枠とリボ・キャッシングなどにおけるできるだけ低い金利をご提供しつつ、与信コストの増加を回避し、さらにはこれまで以上にお客さまのニーズの変化に対応して、その設定額をお客さまのニーズに合うように機動的に変えてご提供していくため、DCカードとアコム双方の強みをキャッシュワンに結集し、コンシューマーファイナンスにおける新たな枠組みを次のとおり構築します。

- (1) キャッシュワンは、来年度上期中に、DCカードのプロセッシング、コールセンター、保証部門と事業統合を行い、現在の個人向けカードローン業務に加え、クレジットカードのプロセッシング業務、保証業務を行う会社とします。
- (2) キャッシュワンへの出資比率をアコム55%程度、MTFGグループ45%程度とし、社名は「DCキャッシュワン」へ変更する予定です。さらに、DCキャッシュワンへアコムの与信スキルと人員を投入し、コールセンターの一体管理などを行います。
- (3) DCキャッシュワンは、買い物履歴などからのクレジット枠への対応とリボ・キャッシング審査の一体化により、クレジット枠設定額をお客さまのニーズに合うように機動的に変えていくことができる体制を構築します。
- (4) DCキャッシュワンは、今年度下期中に、東京三菱銀行の総合カードの保証業務を受託し、業務に不可欠な個人信用情報に基づく適正な与信体制の整備・充実を図るため、全国信用情報センター連合会加盟情報センターへの入会申請を行います。同センターのリアルタイムでの個人信用情報を活用した審査体制により、できるだけ低い金利のリボ・キャッシングなどのサービス提供を実現するとともに、与信コストの増加を回避します。

- (5) 加えて、東京三菱銀行の店舗にて本格展開する予定の MTFG 総合 ACM（テレビ型相談・自動契約機）を通じて、お客さまがボタン1つで DC キャッシュワンにアクセス、自動契約することが可能となる体制を整えます。
- (6) DC カードは、プロセッシング業務、コールセンター業務および保証業務などを「DC キャッシュワン」と事業統合した後も、従来からのカード発行・加盟店・フランチャイズ・提携カードなどの契約関係を継続し、クレジットカードの企画および営業、発行を行うブランド会社としての位置づけとなります。また、アコムはブランド会社の位置づけとなる新しい DC カードに対し、一定の出資を予定しています（出資比率等については、今後必要な手続きや協議を行ったうえで決定していきます）。
- (7) 新しい DC カードは、日本信販株式会社および株式会社 UFJ カードと一体となって各社の強みを生かした日本最大級のクレジットカードグループの形成を目指します。
- (8) DC カードの債権回収子会社の株式会社ディーシー債権回収については、アコムの債権回収子会社であるアイ・アール債権回収株式会社と統合する方向で検討していきます。

3. 本件に関わる UFJ グループとの経営統合について

本件は、UFJ グループとの経営統合に向けた議論を経たものです。

UFJ グループとの経営統合により、新グループ傘下のカード会社は、DC カードおよび日本信販、UFJ カードが結集し、圧倒的な事業規模を誇る日本最大級のクレジットカードグループを構築します。

現在、MTFG グループと UFJ グループは協働し、こうした「スケールメリット」も最大限に活用して、グループ傘下のカード会社が一体となってカード戦略を展開するための枠組み・統合形態の検討を進めています。また、DC カードは、今後、日本信販および UFJ カードとともに事業競争力の強化と業務の効率化を進め、お客さまから一層のご支持をいただけるよう努めてまいります。

以 上

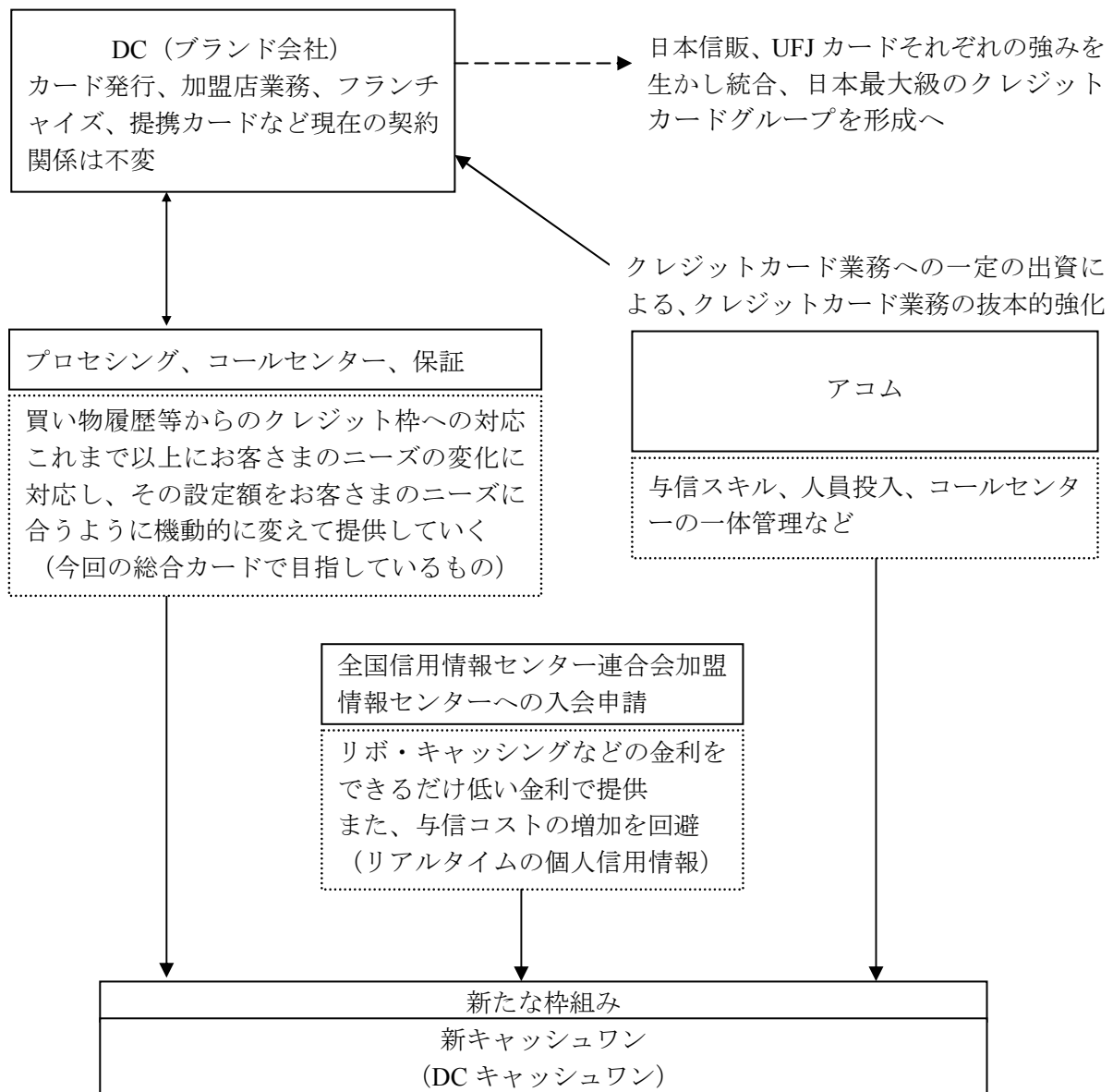
(照会先)

三菱東京フィナンシャル・グループ:	広報 IR 室	(03-3240-8136)
東京三菱銀行:	広報室	(03-3240-2950)
アコム:	広報部	(03-5202-5745)
ディーシーカード:	経営企画部	(03-5489-9076)
東京三菱キャッシュワン:	経営企画部	(03-5299-6611)

<再編概要図>

【再編の目的】

1. DCカードとアコムの双方の強みをキャッシュワンに結集、買い物履歴などからのクレジット枠への対応を行うとともに、リボ・キャッシングなどをできるだけ低い金利でご提供する。
 - ◇ 現状、大半のクレジットカード会社のキャッシング金利は、25%程度あるいはそれ以上ですが、スーパーICカード「東京三菱-VISA」ゴールドプレミアムは、リボ・キャッシングとも9%です。
 - ◇ また、来年度に取り扱い開始予定の商品も、キャッシング金利は15%以下です。
2. 与信コストの増加を回避するとともに、さらに低金利を追及。加えて、これまで以上にお客さまのニーズの変化に対応し、その設定額をお客さまのニーズに合うように機動的に変えてご提供していく新たな枠組みを構築する。



＜ご参考 1＞ MTFG グループとアコムとの業務提携の進捗状況について

今回の DC カードとキャッシュワンの機能結集と再編は、本年 3 月の MTFG グループとアコムとの戦略的業務・資本提携を受け、両者で種々の議論を進めたなかで基本合意に至ったものですが、それ以外にも、(1)アコム保証による東京三菱銀行での個人向け貸出商品の取り扱い、(2)地方銀行等との個人向けカードローン保証業務における連携、(3)アジアを中心とした国際的なコンシューマーファイナンス事業など、さまざまな業務提携を行い、積極的な事業展開を図っていきます。

このなかで、アコム保証による東京三菱銀行での個人向け貸出商品の取り扱いについては、総合カードにおけるクレジットカードを活用したリボ・キャッシングではなく、お借り入れのみのニーズのある個人および個人事業主のお客さまに対して、アコムと提携した即日審査・即日（スピード）発行の商品の取り扱いを来年度より開始する予定です。

＜ご参考 2＞ MTFG グループのコンシューマーファイナンスにおける今後の計画のイメージ

（アコムは含まず、UFJ グループとの統合勘案前）

	平成 19 年度までの 現状比残高増加	対象のお客さま、金利のイメージ等
総合カード (リボ・キャッシング)	3 千億円程度	<u>メガバンクでは MTFG グループのみ</u> 対象：東京三菱銀行のお客さま 金利：リボ・キャッシング 9～15%
アコムとの提携商品	1～2 千億円	対象：借入れのみが必要な東京三菱銀行 のお客さま 金利：8～15%または 18%程度
新キャッシュワンの商品 (DC キャッシュワン)	1 千億円以上	対象：借入れのご必要な東京三菱銀行以外 のお客さまが中心（主にダイレクト チャンネル） 金利：15%または 18%程度
合 計	5～6 千億円	

米国証券取引委員会 (SEC) への文書提出

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ (「MTFG」) は、株式会社 UFJ ホールディングス (「UFJ」) と MTFG の経営統合に伴い、Form F-4 による登録届出書を米国証券取引委員会 (「SEC」: U.S. Securities and Exchange Commission) に提出する可能性があります。Form F-4 を提出することになった場合、その内容には、目論見書 (prospectus) 及びその他の文書が含まれることとなります。Form F-4 が提出され、その効力が発生した場合、UFJ は、当該経営統合を承認するための投票が行われる予定である株主総会の実施日前に、Form F-4 の一部として提出された目論見書をその米国株主各位に対して発送する予定です。Form F-4 を提出することになった場合、提出される Form F-4 及び目論見書には、MTFG に関する情報、UFJ に関する情報、本経営統合及びその他の関連情報などの重要な情報が含まれることとなります。UFJ の米国株主におかれましては、UFJ 株主総会において経営統合について決定なさる前に、本経営統合に関連して SEC に対して提出される可能性のある Form F-4、目論見書、及びその他の文書を注意してお読みになるようお願いいたします。Form F-4 が提出された場合、Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出される全ての文書は、提出後に SEC のホームページ (www.sec.gov) にて無料で公開されます。なお、株主の皆様には、本経営統合に関連して SEC に提出される目論見書及びその他全ての文書を無料で配布させていただきます。配布のお申し込みは、お電話・お手紙・電子メールにて承ります。

MTFG 担当者:

Mr. Hirotsugu Hayashi
〒100-6326
東京都千代田区丸の内2丁目4番1号
丸の内ビル26F
電話 : 81-3-3240-9059
メール : Hirotsugu_Hayashi@mtfg.co.jp

UFJ担当者:

Mr. Shiro Ikushima
〒100-8114
東京都千代田区大手町1丁目1番1号
電話 : 81-3-3212-5458
メール : shiro_ikushima@ufj.co.jp

さらに、MTFG は、Form F-4 (提出することになった場合)、目論見書、及びその他、本経営統合に関係して SEC に提出する全ての文書に追加して、年次報告書 (アニュアル・レポート) 及びその他の情報を SEC に提出することが義務づけられます。これらの SEC に提出される報告書及びその他の情報等については、SEC 内に設置されている公開閲覧室 (public reference rooms 住所 : 450 Fifth Street, N.W., Washington, D.C. 20549) 又はニューヨーク州ニューヨーク市・イリノイ州シカゴ市の公開閲覧室において閲覧・コピーが可能です。公開閲覧室に関する詳しい情報については、SEC までお電話にてお問い合わせ下さるようお願いいたします。(電話番号 : 1-800-SEC-0330) なお、SEC に提出された文書は、SEC のホームページ (www.sec.gov) 又は民間の文書検索サービスを通して入手可能です。

将来の見通しに関する記述

本書には、MTFG、UFJ、及び本経営統合完了後の事業についての将来の見通しに関する情報及び記述が含まれています。将来の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述を意味します。こうした記述には財政状態に関する見通し及び予測 (financial projections and estimates) 及びその前提、将来の事業・製品・サービス等に関する計画・目的・期待に関する記述、並びに将来のパフォーマンスに関する記述が含まれます。将来の見通しに関する記述は、一般に、期待する ("expect,") 予想する ("anticipates,") 考える ("believes"), 意図する ("intends,")、予測する ("estimates") 又はその他これに類似した表現により特定されます。MTFG の経営陣は、そうした将来の見通しに関する記述に反映されている期待は合理的なものであると考えますが、将来の見通しに関する情報及び記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受ける事にご注意下さい。その多くは予測困難かつ MTFG の統御を越えたものである為、将来の見通しに関する記述の中で言及・示唆・予測されている情報及び記述は、実際の結果や状態と大きく異なる可能性があります。かかるリスクと不確定要素には、MTFG が SEC に提出する可能性がある Form F-4 登録届出書に含まれる目論見書 "Cautionary Statement Concerning Forward-Looking Statements" (将来の見通しに関する記述についての注意事項) 及び "Risk Factors" (リスク要因) の項に列挙されたもの等を含めて、MTFG 又は UFJ が SEC 又はその他の現地当局へ公式に提出した文書中で検討又は指摘されている事項が含まれます。MTFG は、適用法により義務付けられている場合を除き、将来の見通しに関するいかなる情報及び記述もそれを更新又は改定する義務を一切負わないものとします。